

「松山市子ども・子育て支援事業計画」の令和元年度実施状況について

＜教育・保育部会＞

事業名称等	提供区域	意見等
	1～3号	
利用者支援事業		支援拠点、相談数ともに増加しており、子育て支援相談窓口が良く機能していることがうかがえる。保健所や児童館などもある複合施設での利用実績が多いことから、今後も多目的公共子育て支援施設での事業展開策を講じていくことが有効と考えられる。
延長保育事業		必ずしも利用率が高いのが良いというわけではない事業なので、利用実数が計画の数値を下回ったとしても問題はありません。急な需要があった場合のことを考慮して、利用実数にかかわらず一定の利用枠を確保することは今後も必要だと思います。
一時預かり事業		延長保育事業と同じく、計画よりも実績値が低いことは問題ではありません。むしろ地域によって生じた計画以上の需要に応え切れているということは特に評価すべきことだと思います。
		令和元年度は計画内の実績を上げていますが、在園児対象型以外で預りをお願いしたところ、数か所の園で「職員の人手不足」を理由に断られ、一度も利用できませんでした。就労で一時預かりを定期的に利用する方が増えたようで、通院や用事などで一時的に利用したい場合は難しいとのこと。職員のシフトや人数の都合で受け入れられないという内情もあるようです。
多様な主体が本事業に参入することを促進するための事業		事業実績2にある「特別支援教育・保育経費」補助は、現場にとっても子どもにとっても大変有意義なものと思われる。令和元年度は補助対象施設は無しということであったが、低年齢児であり診断がついていないケースも多いと思われるので、新規参入か否かに関わらず、今後も経費補助をはじめ支援策を講じることが望ましいと思われる。

「松山市子ども・子育て支援事業計画」の令和元年度実施状況について

自由記載欄(第4章部分に関する事項を含む)

＜教育・保育部会＞

意見等

・実績値評価については、（例えば延長保育が100%に満たない場合、希望した延長保育が受けられないケースがあったということではなく、利用者が見込み値を下回ったということであり、）100%未満であっても保育のニーズは満たされており、100%を超えれば良いということでもない項目がある。評価の数値が、事業の達成度とリンクできるような基準設置が大切であろうと思われる。

・全ての事業について必要な手当がなされており、子育て支援の全般、また年度の終盤のコロナ対応業務についても肌理細やかな施策をしていただいていたと思います。今後も、コロナ対策も道すじがつくまでの間、社会全体が不安定になることは避けられず、子どもたちも否応無くその影響を受けることになると思います。学校の休業等により、働く親の元で家庭に放置される子どもが出ないようによろしくお願いいたします。
・先日、自粛期間中に中高校生の妊娠事例が増えたことに対し、アフターピルの薬局販売を求める産婦人科医の話が放送されていました。たしかにそういうことも起こるのだと再認識しました。従来の子育て支援の上に予想外の新たなニーズが生じることになるかも知れませんが、今後とも子どもを生き育てやすい松山市であり続けられるよう、関係各位のご配慮ご尽力を心からお願いいたします。

・全体にうまく施策は展開していると評価するが、実態としてはなお「保育園に入りにくい」「保育園に入れない」という声も聞く。例えば地域の問題(職場から遠いところしか空いていない)、祖父母の存在の評価方法(父母の居住地、生活状況などで実際には面倒を見ることが困難でも点数にしてもらえない)などである。いろいろな事情は理解するが、そういう声が少なくなるように、もう一歩の手当てが望まれる。

・評価方法について、延長保育、一時預かりなど、必要あるいは申請があったものはすべて受け入れるというスタンスの事業は、数値による評価になじまないのではないか。今後検討の余地がある。

「松山市子ども・子育て支援事業計画」の令和元年度実施状況について

＜地域子育て部会＞

事業名称等	意見等
<p>児童クラブ運営事業（放課後児童健全育成事業）</p>	<p>事業内容が、施設数の充足と設定しているため、実績には含まれませんが、3・4・5月の新型コロナウイルス感染症の対応期においても、開所し続けてくださった児童クラブの職員及び開所を支えてくださった松山市の対応に、感謝しております。その実績については、評価の欄に記述して下さっても良かったのではないかと思います。一方で、児童クラブの支援員からの相談として、質的支援力の向上とその業務にあった労働者としての処遇向上の問題が寄せられています。専門性を高める研修にも力を入れてくださっているが、研修の内容とその成果など、質的取組みについても、評価において明示されることを要望します。</p> <p>児童クラブは放課後や長期休業中の子どもの居場所として必要不可欠なものになっていると思います。コロナ禍での預かりや様々な事情を抱えたお子さんを預かることの大変さに見合う支援員の方々の処遇の改善と共に、子どもに関わることに對する専門性を高める研修を更に進め、各クラブの運営状況の差を無くしていただきたいと考えます。空き教室の使用については学校施設の管理運営上、困難なことも多く、学校とクラブとのより一層緊密な連携や行政上の積極的な支援が必要だと思ひます。</p> <p>受け皿を増やす取り組みが進んでいると感じました。受け皿とともに重要なのが質の問題ですが、研修を受ければ質が確保されるわけではないと思ひますので、各クラブが、運営の課題における解決や工夫に主体的に取り組めるように、仕掛けが必要かと思ひます。</p> <p>保護者の留守家庭支援の場所としての当事業への取組みは、需要に即して充実してきたと実感します。対象学年の拡大、預かり時間の前倒し、延長により保護者は安心を確保し児童もその場で自分時間を持つことができるようになったと思ひます。この関連で、ファミリー・サポート・センター事業の需要は減少していると考えられます。児童クラブへの送迎、クラブからレッスンへの送迎等、ファミサポの仕事は省略されるので。それに加え、依頼会員の児童と提供会員との人間関係もあり実績値の減少は仕方のないことと思ひます。しかも、コロナ流行期からの保護者の在宅等今後は実績値の伸びはむずかしいものがあり支援の内容・修正について再考の余地があると思ひます。</p>
<p>ファミリー・サポート・センター事業（育児）</p>	<p>事業の広報については、工夫して下さっている。今後の更なる工夫に期待したい。例えば、利用につながった人に、どこで、または、何（誰）からこのサービスを知ったかについて、受け入れ窓口での聞き取りを実施する。または、離婚届を受理する課においては、一言説明を添えて配布する、夜間の飲食業・風俗業等、介護等の夜間就労の従事者に職場から、認可外保育所を利用する保育所から配布してもらうなど、利用ターゲットを分析して広報してもらいたい。</p>
<p>子育て短期支援事業</p>	<p>この事業の周知に課題がある気がします。利用者が多いことが好ましいことではありませんが必要な人が必要な時に使える資源になるには、その周囲にいる方々にも知っていただくことかなと思ひます。（会社の人事、保育園や幼稚園の先生等）わかりやすいネーミングもほしい。</p>

「松山市子ども・子育て支援事業計画」の令和元年度実施状況について

＜地域子育て部会＞

事業名称等	意見等
子育て短期支援事業	点検・評価するためには複数の視点からが必要。①まずはニーズにしっかり対応できたか（利用希望に対して対応できたか）、②周知を図るための取り組みができたか、③利用者の満足度はどうであったか、から点検し、事業評価するほうが良いのではないかと考える。
病児・病後児保育事業	
乳児家庭全戸訪問事業	コロナの影響、出生数の減少で今年度の見込みの差があるのは理解できる。近年の実績数の減少傾向にあるので、減少の細かな分析が必要。
	新型コロナウイルス感染症による影響が示されているが、対面に限らず、希望者には、遠隔方法の導入など、対策の検討を望みたい。（すでに対応されているのであれば、評価の欄に明示していただければと思います。）また、特定妊婦への支援は実績に計上しないということであるが、今後は、特定妊婦の対応が充実してくるのであれば、量の見込みを検討される際に、検討が必要と考える。
	直接訪問することで新たな問題やニーズが把握できることもあると思われるが、逆にプライバシーの問題から訪問に消極的な家庭もあるのではないかと、だとすれば今後は訪問以外にリモートでの相談等を選択肢として入れてもよいのではないかと考える。
	全国的に出生数減少により訪問戸数の絶対数が減っています。また、子育て支援としてたくさんの事業が立ち上がり、ホームページで紹介されていてもどうやってつなげていくか母親も分かりにくいと思います。その窓口にあるのが「こんにちは赤ちゃん訪問」であり4か月までに予防接種や健診の情報を伝える役割をしています。保護者の不安を受け止めそれぞれの専門分野につなげていくことで産後うつや虐待の発見、育児不安対応など出産直後の諸問題に向き合っています。訪問に関しては、電話でのアポイントが入口であるため難しい点がありますが、このコロナの時期、母親から会う人話す人がいなくてどこへも行けなくて訪問員に来てもらい会って話せてよかったという声がありました。
養育支援訪問事業その他要支援児童、要保護児童等の支援に関する事業	必要とする家庭、児童に支援が届くように対応人員の確保、資質の担保向上など支援の充実、体制の整備が必要。
	訪問数の増大は、担当課の支援努力がうかがえる。特定妊婦への支援は、虐待をはじめ、様々な子どもに関する問題の未然予防に効果が高いと考えるため、特定妊婦数の実績推移を分析して評価してほしい。また、新型コロナウイルス感染症の対応による養育支援訪問事業のニーズの変動があったかなど、次年度の評価時には分析してほしい。

「松山市子ども・子育て支援事業計画」の令和元年度実施状況について

＜地域子育て部会＞

事業名称等	意見等
<p>養育支援訪問事業その他要支援児童、要保護児童等の支援に資する事業</p>	<p>見込み数を大きく上回る実績数であるため、達成度が上がっていますが、実際には逆に問題が深刻化しているのではないかと危惧しています。養育支援が必要でありながら自分から支援を求めることができない家庭を早期に発見することの難しさと共に、行政的な支援を受け入れていただけるかどうかの難しさもあると現場で感じています。</p> <p>実績値が達成されればされるほど、専門職の方の疲弊が進むのではないかと、気になります。専門職の方の負担が軽減されるよう、身近で、通報だけでない虐待防止策が考えられたらと思いました。</p>
<p>地域子育て支援拠点事業</p>	<p>次年度の評価時には、新型コロナウイルス感染症による来所者数の変動、相談内容の変化など影響について、分析してほしい。また、感染不安により、来所が難しい家庭に関して、新たな支援の方法の工夫が望まれるが、現場で取組まれた好事例があれば分析し、評価に明示してほしい。</p>
<p>病児・病後児保育事業</p>	<p>供給量に依拠しているかの評価がわかる数値がない。（希望数、受け入れ数の差等） 評価ができる数値は何が必要なのかを検討できるとよい。</p> <p>マスク・手洗いの徹底、三密回避、不要不急の外出の控えなど、新型コロナウイルス感染症に取り組むことで、従来の感染症の発症率が低下したというデータもある。病児保育・病後児保育の利用にも影響が出てくる可能性もあり、単純に利用者が減ったことがマイナスの結果とも言えない状況が出てくるのが予想されるため、次年度の評価時には、新型コロナウイルス感染症対策との関連や他の感染症の発生状況など、複合的な要因に基づいて分析した結果から、評価をしてほしい。</p> <p>子どもが病気になった時、働く親には「役割葛藤」が起こります。親という立場・仕事を抱える立場、どちらを優先するか？どちらの期待に応えるか？というジレンマです。代わりがきく休める仕事の時には休んで子どもをみる。どうしても休めない場合は病児にお世話になる。選択肢があることが葛藤を減らせることになると思うので、そういった「啓発」もセットが必要かと思います。病児やファミサポのような地域インフラ、他者の手を借りることを「子どもが可哀そう」と言う無責任な批判もまだまだあるようです。</p>
<p>ファミリー・サポート・センター事業（育児）</p>	<p>依頼会員の減少は提供会員数が少ないのも関係あるのではないかと。実際に依頼しても提供に結びつかないケースもある。地域により提供会員が充実している。提供会員の確保のための策を検討していただきたい。</p>

「松山市子ども・子育て支援事業計画」の令和元年度実施状況について

＜地域子育て部会＞

事業名称等	意見等
ファミリー・サポートセンター事業 (育児)	<p>実績数の分析では、提供会員の不足のみが課題として示されているが、利用率が伸び悩んでいる要因は、他にもあるのではないかと思う。就労する女性が増え、保育所等の一時保育等保育所の支援や幼稚園の子育て支援が充実してくる中で、これらの費用負担額とファミリー・サポートセンターの利用料の差など、費用面の問題については分析する必要はないのだろうか。また、数時間の預かりニーズが、今後必要となる世帯の再分析が必要なのではないかと思う。乳児家庭訪問支援事業や養育支援訪問事業家庭との連携なども視野に入れた事業（他県で実施しているホームスタート事業などのイメージです）を検討することはできないのだろうかと思います。</p> <p>そろそろ、施策の意義を含め、施策そのものの見直しを考えるべきではないかと思う。今までの取り組みを活かしつつ、現状のニーズをくみ取った提供内容の拡充を図るべきではないかと思う。育児サポートをされる方は今まで通り講習会への参加は必要であろうが、例えば家事サポート（掃除、買い物、料理など）のみの提供であれば講習会免除で費用を抑えることができる。シルバー人材での家事サポートがあるとのことだが、小さな子どもたちの食べたいもの、味付けなどは、より利用者と近い年頃の提供者の方が理にかなったサポートができるかもしれない。また、互いの育児経験を話したりと親近感をおぼえるかもしれない。話し相手もサポートの一つであるように思う。シルバーもあり、この事業もありと受け皿は多いに越したことはないのではと考える。この事業の情報発信の場に乳幼児家庭全戸訪問事業である家庭訪問時にチラシを配布するなどの案内をしてみてもどうか。ホームページや小冊子をじっくり眺める機会は少ないだろうから、サポートの内容やら金額やらしくみをわかりやすく書いたものを配布してあげると喜ばれる家庭もあるかもしれないと思う。この訪問事業対象家庭がもっともサポートを必要としている世代といえるから。ただ、昨今の痛ましい事件や新型コロナ、プライバシー保護などから他人が家庭に入り込むこの事業は難しくなっているのも事実だと思う。</p> <p>事業利用の伸び悩みについて、分析が必要。必要性が低いのであれば計画の縮小、あるいは事業そのものについて根本的な議論が必要になると考えられます。</p>
妊婦一般健康診査事業	<p>こちらの事業は逆に達成度は下がっていますが、受診率はほぼ100%に近いとのことですので、少子化に伴い見込み数の見直しが必要なのではと思います。</p>

「松山市子ども・子育て支援事業計画」の令和元年度実施状況について

自由記載欄(第4章部分に関する事項を含む)

＜地域子育て部会＞

意見等

・国の政策として共生社会の実現が掲げられています。分野、領域を越えた取り組みがどれだけ展開できるかが今後重要だと考えます。子育て支援においても、他分野、他部署、地域とどれだけ垣根を超えての連携が図れるかがポイントになるかと思われます。ぜひ、積極的な取り組みをお願いします。

・地域には子育て支援に活用できそうな様々な物的、人的資源が存在していると思います。今後の支援に活用できうる資源がどのようなものがあるか、それが利用しづらい原因はなにか、それを解決するためには何が必要か、また新たに発掘、開発しなければならない資源にはどのようなものがあるか、そのためにはどこがどのような役割を果たしていかなければならないのか、などについての議論が必要であるように感じます。(すでにどこかで行われていることとは思いますが) 既存の事業をただ回すだけでは今後ますます深刻化する少子化問題、子育て問題には対応が困難になってくると思います。

・評価をするにあたり根拠がわかるデータや利用者の声があればよい。利用者の声は成果につながっていることを実感でき、また、改善点なども明確になると思います。具体的に知ることによって評価の参考になります。現在の数値化目標だけでは質や改善点が見えにくいと思われます。

・「子ども・子育て支援事業計画」の市民への認知度が低い。市民への啓発も必要ではないか。実際にアンケートの回収率が低いなど対策を考えないといけない。